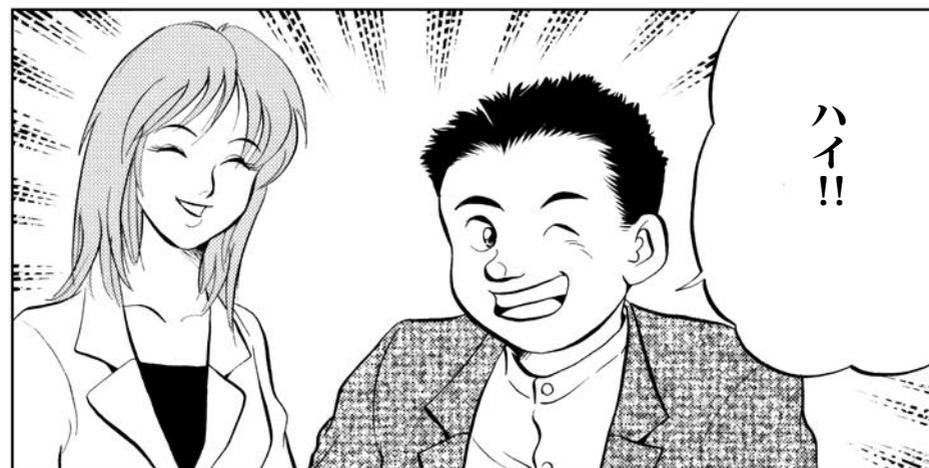
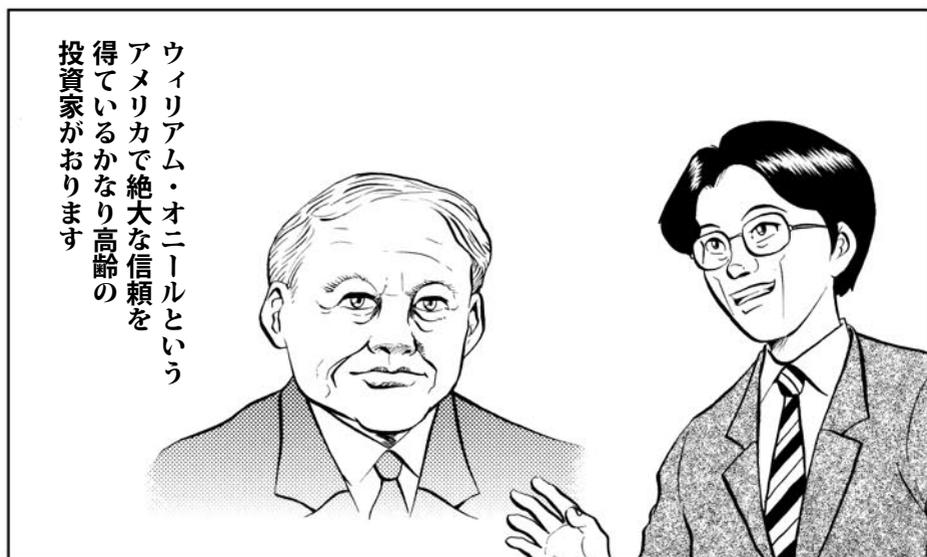
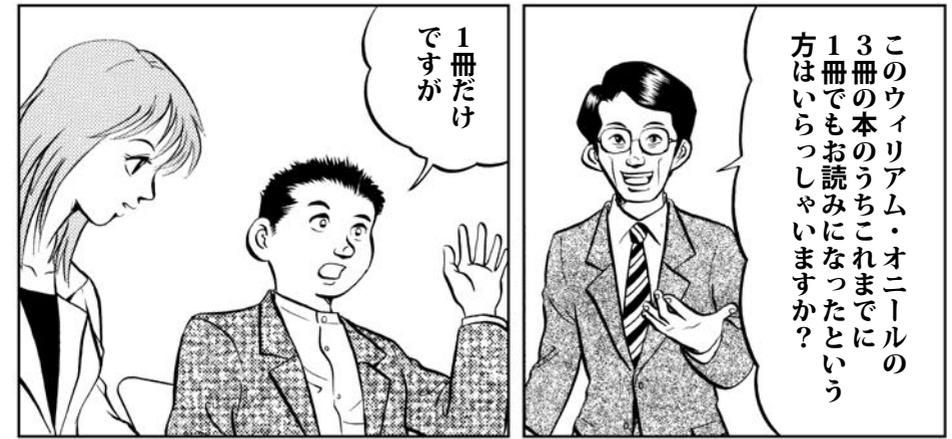


# 第1章 ウィリアム・オニールの 「CAN-SLIM」投資法





オニールの成長株投資に入っていく前に  
株式投資についてまわる  
「自己責任」について  
ふれておきましょう

よく指摘されることですが  
あいまいに使われている  
ようなので…

改めて申しませんが  
株式投資では  
二つのことを自分自身  
で決めていかなければ  
なりません

つまり二つの  
決定事項に  
自分が責任を  
負うということです

まずひとつ目は

「何を  
買うか(売るか)」

これら二つのことを  
「自分で」決定しなくては  
ならないわけです

そして二つ目に  
それを  
「いつ」  
買うか(売るか)

まずひとつ目の  
「何を買うか」ですが

ファンダ

どのような株でも  
通常「何を買うか」  
という決定は  
ファンダメンタル分析に  
基づいて行われます

それに対して二つ目の  
「いつそれを買うか(あるいは  
売るか)」という決定は  
どちらかと言えばテクニカル分析  
に関わってくる部分です

ファンダメンタル  
テク

ファンダメンタル分析と  
テクニカル分析…  
イメージがよく  
分らないんですが…

一方 その製品を買うときに  
どのお店が安いのか  
いつ安売りやバーゲンをしているのか  
を調べるのがテクニカル分析に例えられます

大売出し?  
ポイント還元?

アフターサービス?  
歳末・初売り商品?

なるほど…  
女性の買いものは  
バーゲンや  
タイムサービスなど  
テクニカル分析が  
主流だな

ブランドを見る目は  
ファンダメンタル分析よ

つまり株式投資では  
一人の人間のなかに  
ファンダメンタル分析と  
テクニカル分析の  
二つのアプローチ方法を  
常に併せ持っていないと  
ならないわけです

分かりました  
具体的に  
説明しましょう

ファンダメンタル分析  
テクニカル分析

例えば今流行の  
液晶テレビを  
買うとします

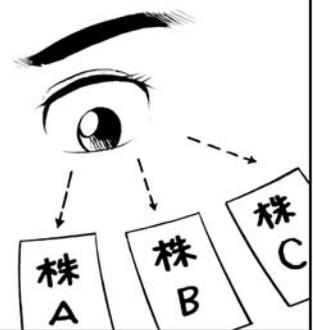
どのメーカーの液晶テレビが画質やサイズ  
消費電力で優れているかを調べるのが  
ファンダメンタル分析です

高い値段を出せば良いモノが  
手に入りますが  
予算には限りがあります

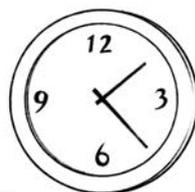
ところが実際は投資に  
関する本を書いたり  
私のように講師として  
人前で話をしたりする  
立場の間人は  
だいたいは  
このどちらか一方の  
立場に属している  
ものです



ファンダメンタル分析に  
強い人もいれば



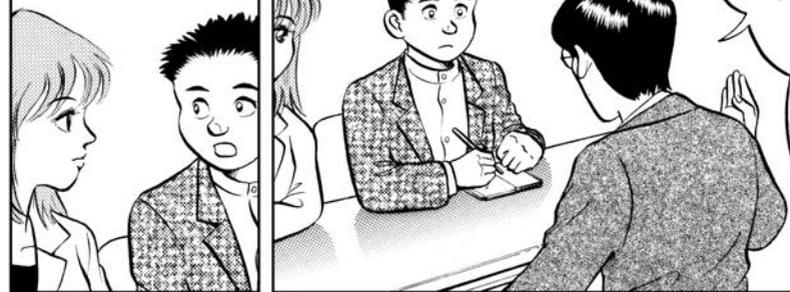
テクニカル分析に  
強い人もいます



それぞれの人が  
いろいろな立場からさまざまなことを  
言ったり書いたりするのですが  
実際に株式投資を  
行う人は  
自分で二つとも  
やらなくては  
なりません

これが  
「自己責任」  
の身です

スペシャリスト  
ではなく  
ゼネラリスト  
が要求  
されるのか



今回ご紹介するウィリアム・オニールは  
株式の世界では成長株投資の  
第一人者だと言われています



しかし実は  
ファンダメンタル分析  
もさることながら  
「テクニカル的なアプローチを  
たいへん研究している方だな」  
と著書を3冊通読して  
つくづく思います

ファンダメンタル分析と  
テクニカル分析の  
どちらにも  
深く通じている  
たいへんまれな存在  
のように感じます

従って本当は  
オニール氏の書いた本を  
読まれるのが  
一番良いわけです



どんなときでも  
原典に触れるというのが  
一番だと思います



ぜひ機会があったら  
読んでみてください

デルコンピュータは  
株式分割を何度も実施しています  
したがってグラフ上では修正されて  
10ドルあるいは20ドルという表示に  
なってしまうますが  
そこから100ドルを突破するまで  
ずっとロング(買い)で引っ張り続けるという  
手法をまず紹介しています

ここでの要点は  
デルのような大化け銘柄の  
見つけ方と買うポイント  
そして売るポイントに  
なるわけですが

それらを同書のなかでは  
豊富な事例に基づいて  
淡々と述べているわけです

では本論に  
入りましょう

まずはこれら  
をご覧ください

デルコンピュータ(DELL)  
1995年7月~1997年12月

(ドル)

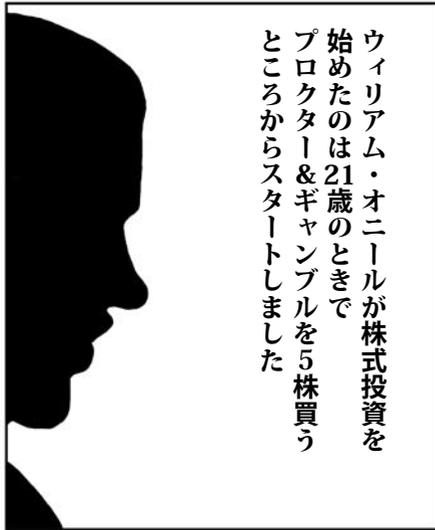
これは  
オニール氏が  
最初の著書である  
『成長株発掘法』のなかで  
真っ先に紹介  
している事例です

デルコンピュータの  
1995年7月~1997年  
12月の週足チャートです

なかでも特に強調  
しているのが①  
(1996年7月)  
この矢印の部分での買いです  
そして二番目の  
この矢印の部分②  
(1996年11月)の買いです

① ②

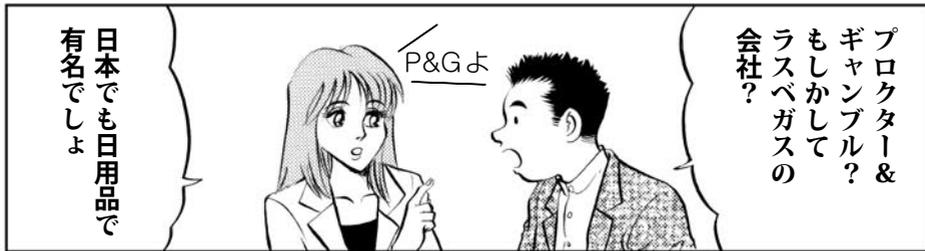
96/5 96/10



ウィリアム・オニールが株式投資を始めたのは21歳のときでプロクター&ギャンブルを5株買うところからスタートしました



冒頭にあたってウィリアム・オニールのプロフィールについて大まかに紹介しましょう



プロクター&ギャンブル? もしかしてラスベガスの会社?

P&Gよ

日本でも日用品で有名でしょ



そして30歳でニューヨーク証券取引所の会員権を買いました



最初は約5万円で株式投資を始めたわけです



これからお話しするのはどちらかというとオニール氏の持つテクニカル分析的な側面ではありません



テクニカル的な部分は書物のなかでも無数に紹介されていてとても一時間で話し切れるものではありません。ですから最重要点をいくつか指摘するにとどめます



もうご存知の方もいらっしゃると思いますがかの有名な「CAN-SLIM」投資法です



そしてウィリアム・オニールのなかで最も有名でかつ最もオニール的なファンダメンタル分析の部分である「CAN-SLIM」についてお話をします

日本ではあまりピンときませんが  
アメリカでは株式投資(あるいは  
株式投機)で成功した人の  
究極のゴールというのは  
「ニューヨーク証券取引所の会員権を  
買うこと」と相場が決まっています



つまりそれが名実ともに  
成功者のあかしとなり投資家は  
誰でもそれを夢見るわけです

そこからさらに  
次のステップを目指して  
ビッグになっていく  
わけですが

つまり  
ウィリアム・オニールは  
21歳で5万円から始めた  
株式投資で成功して  
10年もたたないうちに  
わずか30歳で  
ニューヨーク  
証券取引所の  
会員権を  
購入したわけです



ニューヨーク証券取引所  
の会員権は今なら  
どれくらいするの  
ですか？



うーん  
会員権は100万ドル  
ではきかない  
ですね



もっとすると  
思います

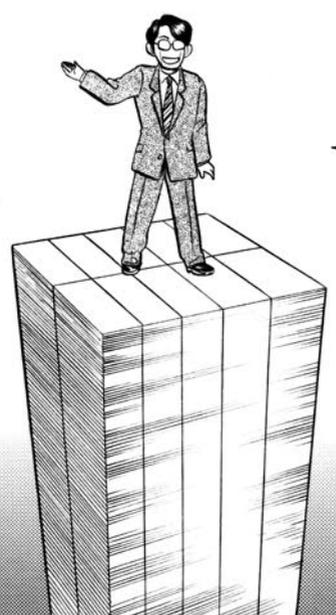
100万ドル…  
約1億円以上…



彼はたった9年間で  
そこまで富を  
積み上げた  
わけです



ウィリアム・オニールの投資手法は徹底した  
実証研究に基づいて成り立っています  
彼はまず過去50年間にわたって  
毎年10銘柄ずつ  
その年にものごく大化け  
大勝ちした銘柄を  
選び出すことから始めました



つまり1953年から現在に至るまでの  
50年間 毎年10銘柄ずつ  
計500銘柄の大勝ち銘柄を積み上げるわけです



「CAN-SLIM」とは  
500銘柄にのぼる  
歴史上の大勝ち銘柄が  
急騰する前夜に持っていた  
共通の要素を  
七つの項目にまとめたものです  
それらの項目を分かりやすく  
頭文字で表しています



頭文字だったんだ…

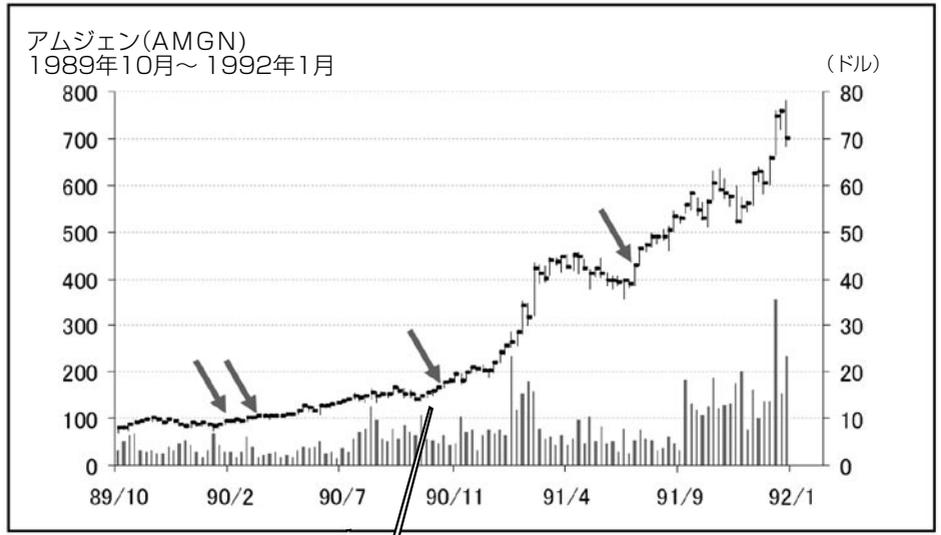
冒頭の3冊の著書に  
戻りますね

日本で最初に発刊された  
『成長株発掘法』は  
原著では改訂第二版の  
翻訳本に当たります



1988年に第一版が出て  
1991年に第二版  
そして1995年に  
改訂第二版が出ており  
この改訂第二版が日本語に  
翻訳されているわけです

改定版を出すたびに  
「CAN-SLIM」の内容も微妙に  
進化している様子が  
うかがえます



そしてその500銘柄の大勝ち銘柄が  
例えばアムジェンのように  
上昇する直前あるいは矢印の辺りで  
備えていたエッセンスというか  
急騰銘柄に共通する特徴を  
全部抜き出していきます

その特徴を  
集大成したのが  
「CAN-SLIM」  
というオニール独自の  
投資手法なのです



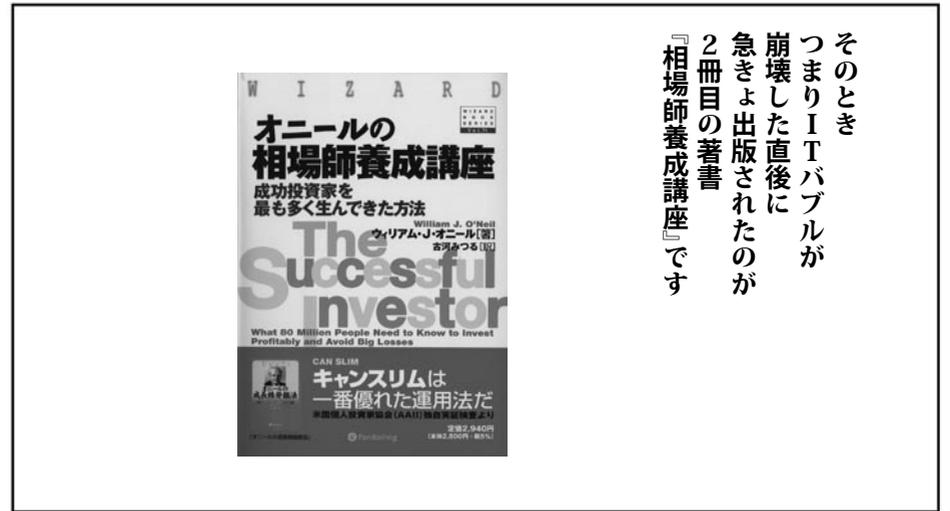
1冊目の『成長株発掘法』は  
タイトルからも分かるように  
「CAN-SLIM」を使って  
大勝ちする成長株を  
見つけることに  
最もウェイトが置かれています



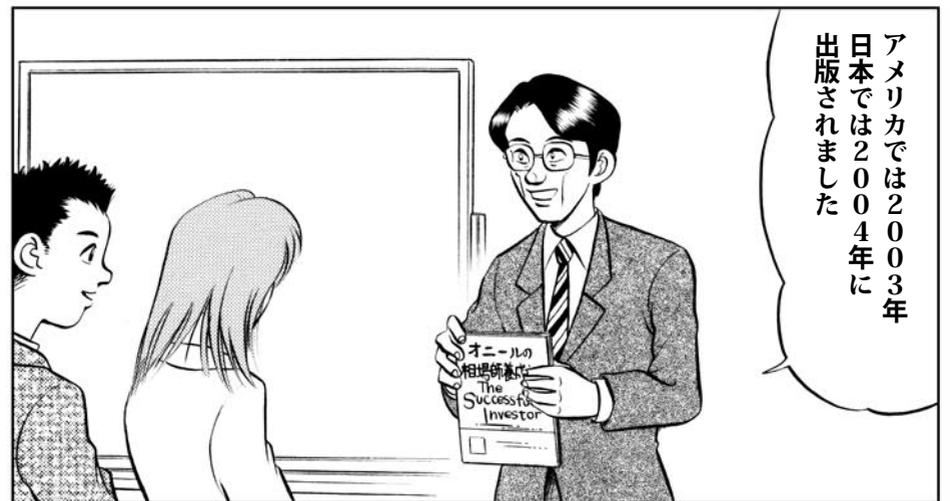
これが2冊目の『相場師養成講座』になると  
ITバブルの崩壊という猛烈な下落相場のなかで  
いかに財産を守るかという  
売買テクニクスの説明にかなり比重が移っております  
ファンダメンタル的な「CAN-SLIM」の説明は  
最小限のものにとどめられています



その後2000年に  
ITバブルの崩壊を  
経験してアメリカ中の  
人々が株式投資で  
富の8割方を  
失ってしまい  
株式投資に対する  
絶望感が  
広がっていきました



そのとき  
つまりITバブルが  
崩壊した直後に  
急ぎよ出版されたのが  
2冊目の著書  
『相場師養成講座』です



アメリカでは2003年  
日本では2004年に  
出版されました

## 第2章 理解のための用語解説

